

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	血液透析患者におけるテナパノル塩酸塩の血清リン値の改善および服薬錠数削減の評価
研究責任者	【研究責任者】 聖隷浜松病院 薬剤部 磯崎 泰也 【研究分担者】 聖隷浜松病院 薬剤部 竹村 明子
研究実施体制	聖隷浜松病院
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2025 年 11 月
対象者	2024 年 2 月から 2025 年 3 月までの間に聖隷浜松病院透析科に通院した血液透析患者のうちテナパノル塩酸塩を処方された患者さん
研究の意義・目的	透析患者における高リン血症は、冠動脈石灰化の進行や心血管疾患のリスクを増加させ、患者の予後に深刻な影響を与えます。高リン血症の適切な管理は透析患者の治療における重要な課題ですが、現在使用されているリン吸着薬の効果には限界があり、特に服薬錠数の増加が患者の負担となることがあります。服薬錠数が増えることは、水分摂取量の増加や内服のアドヒアランス低下に繋がる可能性があり、患者の生活の質に影響を与える恐れがあります。 2024 年に発売されたテナパノル塩酸塩は腸管でのリン吸収を抑制する新たな薬理機序を持ち、血清リン値の改善が期待されています。テナパノル塩酸塩を使用することで血清リン値の改善や服薬錠数の減少が見込まれ、アドヒアランスの向上に寄与する可能性が考えられています。 本研究では、テナパノル塩酸塩を処方された血液透析患者を対象に、血清リン値の改善と服薬錠数の減少に与える影響を調査します。
研究の方法	【研究のデザイン】後向き観察研究 対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行います。 2024 年 2 月から 2025 年 3 月に高リン血症でテナパノル塩酸塩を処方された患者 40 名を対象としました。 調査項目の調査（年齢、性別、既往歴、血清リン値、血清 Ca 値、アルブミン、i-PTH、併用薬剤、排便状況）
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。

資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	【相談窓口】 聖隷浜松病院 薬剤部 磯崎 泰也 (電話)053-474-2222 (代表) T9:00～17:00 平日